

目標 果樹農業の次世代への継承及び「果樹王国 和歌山」としての更なる発展

1 本県果樹農業の現状

- 生産**：過去5年間で、樹園地面積は900ha（△4.4%）減少
異常気象により、反収が大きく変動
- 販売**：出荷量は減少しているが、卸売価格の上昇に伴い、産出額は増加
- 担い手**：過去5年間で、経営体数は約2,300経営体（△15.7%）減少
果樹農業への新規就農者は、年間100名程度で推移
- 農地**：借入樹園地面積は横ばいで推移
経営耕地面積が2ha以上の経営体の割合はわずかに増加

2 果樹農業の振興に向けた取組方針

(1)労働生産性の向上による経営面積の拡大

- ・スマート農業技術の普及の加速化
- ・農作業受託組織の育成
- ・基盤整備＋園地の集積・集約化の推進
- ・本県に適応した省力樹形の開発・普及
- ・加工用果実の省力栽培の検討

1 経営体あたりの
経営面積の拡大

(2)新品種の育成＋対策技術の開発・普及による気候変動への対応

- ・温暖化対応品種の育成及び対策技術の普及
- ・病虫害の発生拡大を見据えたモニタリング調査＋防除対策の徹底
- ・総合的な雹害対策技術の開発

(3)高品質果実の安定生産＋魅力発信による付加価値の向上

- ・高品質果実生産（優良品種への改植等）による産地競争力の堅持
- ・「おいしい！健康わかやま」による機能性PR
- ・農業遺産認定やテロワールを活用した魅力発信

3 栽培面積・生産量の目標

	栽培面積 (ha)		生産量 (t)		平均経営面積(ha/経営体)	
	2023年	2030年	2023年	2030年	2020年	2030年
果樹全体	18,617	17,681	297,814	281,651		
うんしゅうみかん	7,110	6,700	143,900	138,900	1.2	1.5
うめ	5,270	5,100	61,000	53,700	1.3	1.9
かき	2,490	2,300	37,900	36,700	0.9	1.1
もも	706	675	7,240	6,610	0.7	0.9

4 品目別振興方針

(1)うんしゅうみかん：産地競争力の維持による産出額 日本一の堅持

- ・市場供給量の少ない1～3月の出荷増に向けた極晩生品種「あおさん」への改植の推進
- ・スマート農業に対応した園地整備の推進
- ・日焼け果等の高温対策技術の徹底

(2)うめ：気候変動に対応した栽培技術の導入による安定生産・所得向上

- ・暖冬による不完全花の発生に対応した開花期後進技術の開発
- ・樹形・ネット被覆等による総合的な雹害対策技術の開発
- ・「姫南高」の名称を商標登録した「NK14」及び梅干品質が良好な「星秀」の新たな販売方法・ブランド化の検討

(3)かき：安定生産による産地ブランド力の維持＋高単価品種への転換

- ・「刀根早生」の安定生産による産地ブランド力の維持
- ・「紀州てまり」、「紀州あかね」への転換、「紀の川柿」、「完熟富有」の増産による所得向上

(4)もも：高品質安定生産の徹底と安定的な品種リレーによる産地競争力の維持

- ・主要品種間（「田川白鳳」－「白鳳」－「清水白桃」－「川中島白桃」）を繋ぐ優良品種の探索・育成
- ・果肉障害対策技術の徹底＋AIを用いた障害果判別技術の開発

うめ・もも・すもも 共通：クビアカツヤカミキリ対策の徹底